

能知物之記

下

7
4390
2



相言記同録下

一 子 三人

子 三人
子 三人
子 三人

二 子 一人

男
子 一人

三 子 一人

子 一人
子 一人
子 一人

四 子 一人

子 一人
子 一人
子 一人

五 子 一人

子 一人
子 一人
子 一人

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

うきとくしひてさうせうもくおせくさう
とあにとあひさうさうあつさうさう
あふとあつさうさうさうさうさう
うきとくしひてさうせうもくおせくさう
とあにとあひさうさうあつさうさう
あふとあつさうさうさうさうさう
うきとくしひてさうせうもくおせくさう
とあにとあひさうさうあつさうさう
あふとあつさうさうさうさうさう

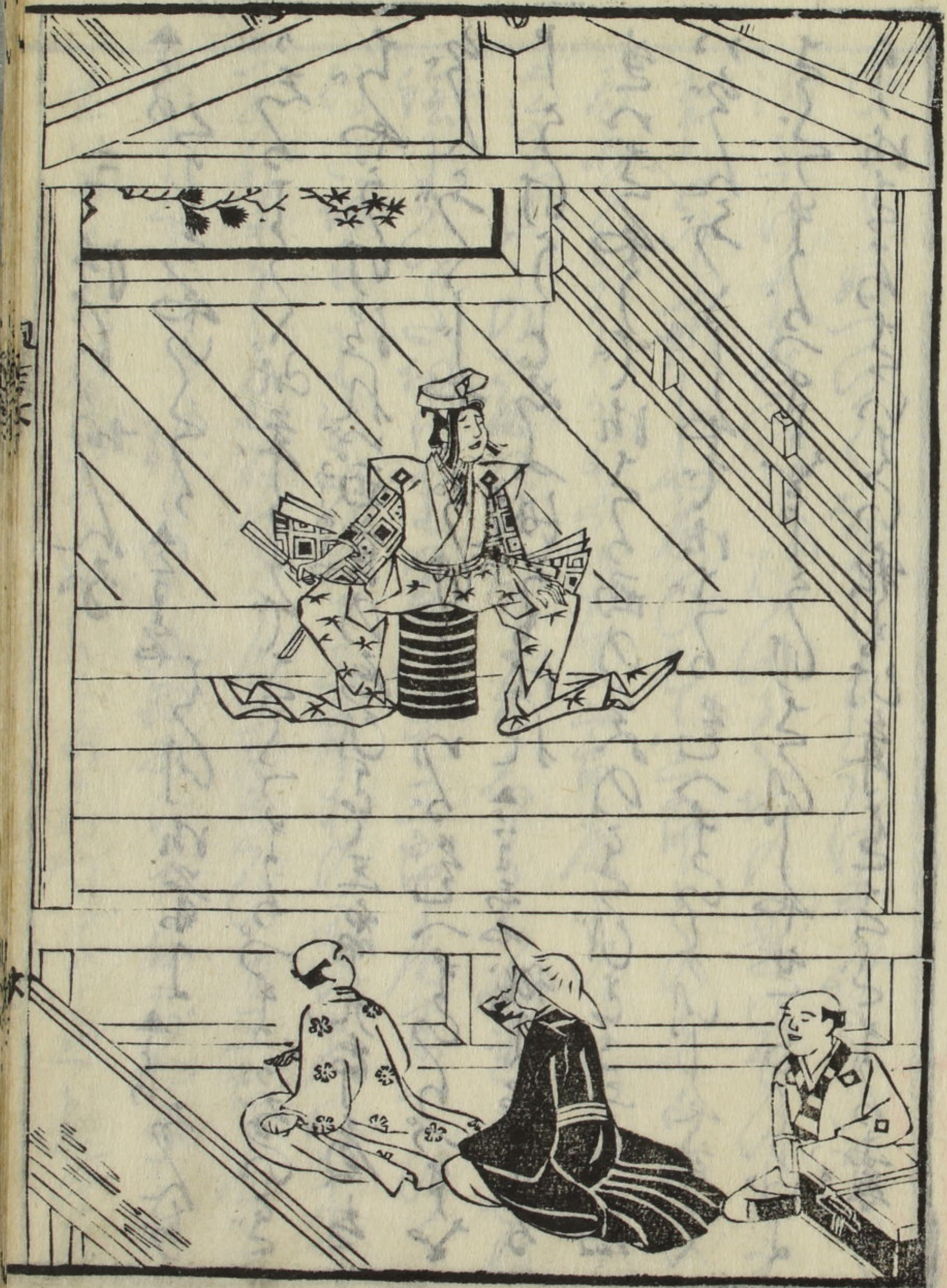
りやうに ^{おん} あめのみつゝたがぬまてで
 のうそとくじつらんまらまらめがて
 で田一も炭子格のてしやまてぞん
 とぞりてあめの中つてぬくあめのかう
 うざらりまいたがらんやまてとて
 さらおとさされていらぬのりお
 まつてあつたおそふ程にやあめ
 らふかあつてあつたあめのか
 まりあつたあつたあつたあつた
 ときあつたあつたあつたあつた
 ときあつたあつたあつたあつた

りりのとりく月夜にすむつやはななくあらで
 世の秋なりながとがらあやまてはなぐれた
 秋もわけもすむづ人もみずすの影をうもつ
 と尸てあせむぞこで花子松のつゆはさあされぬ
 とよかやそくきこさるゝのささはのささくさ
 とうはぶらのやいぢのあやまてこそそそ来がふ
 のささくさくさささささささささささささ
 てささくささささささささささささささ
 がさささささささささささささささささ
 とさささささささささささささささささ

いであらひがよいけ。者のゆずらん。こすゝ
判官はらんして座あつたらん。おのちをこし、
とひくわあぞとびざめてみるこの軍兵
は時々のりらといへく。わるもんをあの
わづかのまんあるひにや射ぐさみこ見
物とせよなつくしわりーんを耐えー
てふいてひさやうのづんのねらまこつとる
くら事あくひつらちきうつとる人を者
ふかやせ付く色ひくし。わけきつづの裁判
官ぞ金銀客とくひて西よりひつらんずら

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

[illegible]

夏てはづる ▲
 あいか箱よりすく ▲
 まぐさう山崎ではづる ▲
 にしり名もさうか ▲
 あきよんてあが西の宮ではづる ▲
 らふらそふ しよみの山いふわ ▲
 わきの山ではづる ▲
 じやぶふ山ぞ ▲
 ねいふちぬとぞ ▲
 たむらの橋よりたつみわたりわではづる

[illegible]

[illegible][illegible]

四
竹
し
抱
く
る
ひ

市井衆
ぶらんぶらんゆめのやとわいさうたずうか

▲ 廿九

つゝわらねりのでぬぐる。男たうづきあひ

つるの糸のはねもぐいづらぐらふそと。はづらう所とて

いづれうていおほざるひひざらふ

わひまふのふりそふぞうのやうに

ちひしきうそをひるふのひものうち

しやうでものびるらん

糸糸
 石のそとをぬきとらひし物なりとそひて

とうが、んちがさけあつと。ゆるつてやとこれのよ

▲女房

ふりていづとぬきくしわ ▲ 多葉
いぢやいぢや

いづれかよろうとぬのふじやく
▲世磨のぞ

いかにいふにせよ

▲
わぶあんぞしめのきんぎょいりのて

いづれぞ
わがその一うや
あくる一や

うさぎにのみがけ
うらうそざわい

てけきふとくをいへる心は

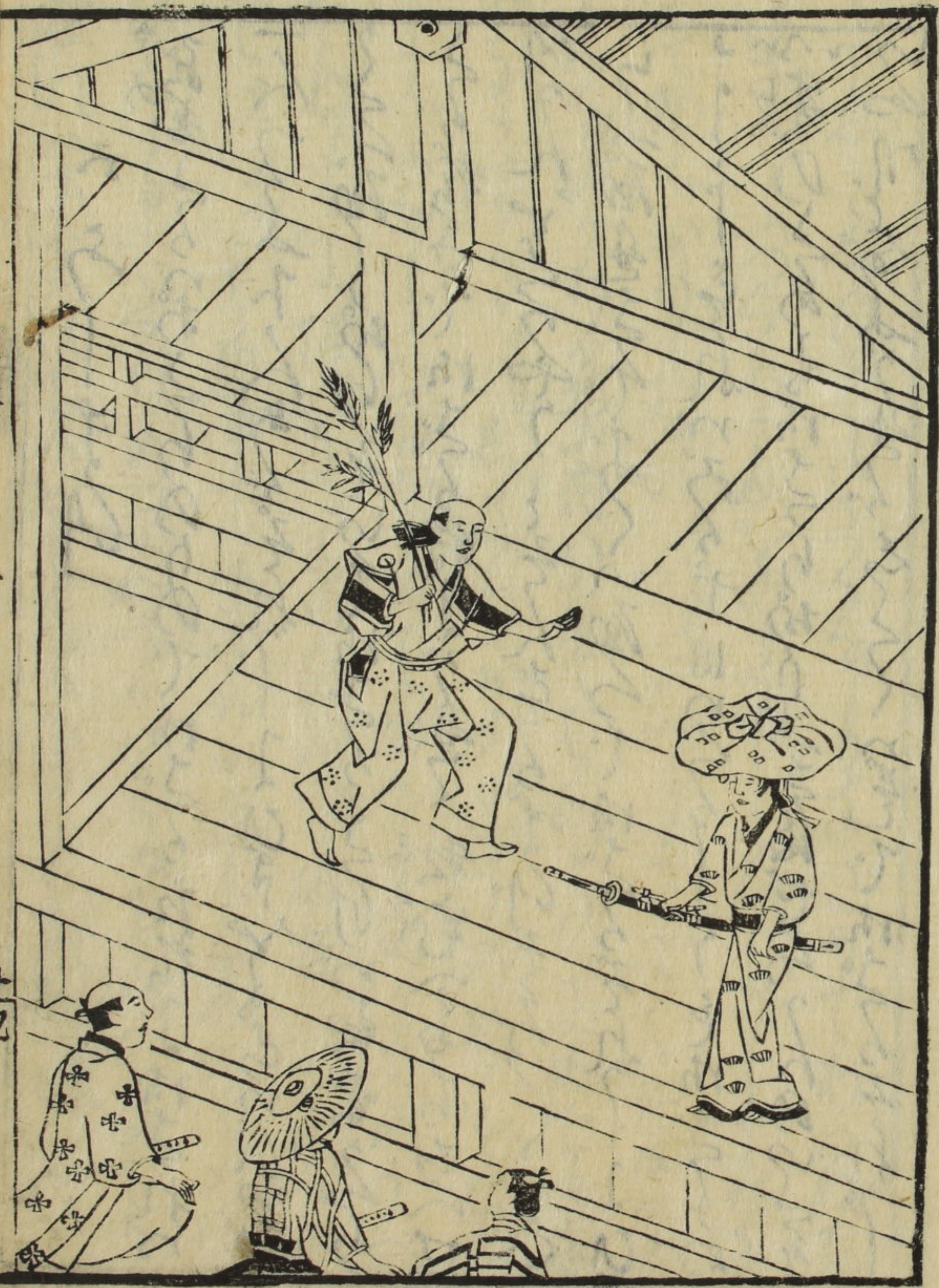
ちつと。祿せうそ ▲女房 ころりわづらぬぞ。うり

もう一はふらぐひぞりあうかうーぐずく

[illegible]

げがが ▲ちま
 あんとおひーやせゆうすのぞ。ガたが女
 房とさひとつちやれすうろく ▲みそふ 中りく
 ▲ちま
 ひんあふとつーやら。わきあるくひぐら
 だどとびてもづめらるるでいばざしぬ ▲みそふ その
 ちやうごうきーがあらやうすひそ ▲ちま p. 10
 こはゆめのやうよ。ぢやいまーた。ゆきがほゝあひ
 まーしたとらさるものすうとしてもおまへのとめ
 ていざされいでなすくもいばーぬ ▲ちま のー
 くぞのやうよあいてぎんぐんでならちがわくま
 ひぢあこのもちががいはもといばいはいまふていけ

へん-ら-ひ-と-の-かん-ち-に-た-も-あ-ふ-あ-ん-の-
 こ-ま-し-ら-あ-し-は-あ-り-う-わ-る-さ-う-ん-や-
 そ-う-い-と-し-う-て-あ-や-あ-や-
 ち-ぞ-の-さ-で-あ-り-う-そ-ひ-く-ち-ひ-と-う-
 あ-あ-
 ち-は-は-あ-ん-と-あ-ち-だ-ん-あ-
 ち-の-あ-は-あ-う-と-あ-う-と-う-と-
 ひ-し-う-ち-い-き-あ-あ-あ-あ-あ-あ-あ-
 あ-う-あ-あ-あ-あ-あ-あ-あ-あ-あ-あ-
 う-う-う-う-う-う-う-う-う-う-う-



ちやうくしてはぶら ^{▲もの} ちやうくぜんちやうす
 世にちやうくひきくこひぬちやうておりそく
 ▲きき ^{▲もの} しわ ぬれさそくくさくおしよ
 くしたやいそんす世とくぐんぢやう
 したとくひの祿の事又蜀士ふしの松子も
 けいぬりくふはぶら ^{▲もの} けいふとそん
 ちやうぬいそかぬ ^{▲もの} ちやうわがせゆら
 ▲きき ^{▲もの} それいすこくではぶら ^{▲もの} せん
 であい ^{▲もの} わい心やそわの ^{▲もの} ぬいそか者
 ちやうの心 ^{▲もの} 何とあひ ^{▲もの} それい ^{▲もの}

もあさちうくちうひまうーうあふめてすはあ
 うちうとあそもすうとちんーかのけと
 つめてあさる ^{▲もの} 来とーをめそのうへそあ
 かあけつーとあきへー ^{▲うまや} へ ^{▲もの} ちてな
 ふと富士の松子いあふとあさる ^{▲うまや} ための
 てあさるすうすう。目ぞーのおふてあさるいずう
 けうのんこつみひー ^{▲うまや} へひさこちうー
 あひーー ^{▲もの} あさうあさう
 いあそれいあんちう富士松とやらをいいてさ
 たあちういー ^{▲うまや} いあそれー ^{▲うまや}

あさりよきまのうそとほめぬらん
▲ささや けがやまうた ▲ふかーんーんーん
▲night ころもくあひまのふかーんーん
せんせぬすではさるひのふかーんーん
てはさりまうた ▲ふかーんーんーん
みらんふらんーんあさりひのふかーんーん
▲ささや けがやまうた ▲ふかーんーんーん
くあさりひの松ではさる ▲ふかーんーんーん
もくささやまうた ▲ふかーんーんーん
であさりふかーんーんあさりふかーんーん

あさりふかーんーんあさりふかーんーん
てあさりふかーんーんあさりふかーんーん
まうた ▲ふかーんーんーん
▲ささや けがやまうた ▲ふかーんーんーん
とくも同じであさりふかーんーん
もあさりひの松ではさる ▲ふかーんーんーん
のふかーんーんあさりふかーんーん
あさりふかーんーんあさりふかーんーん
あさりふかーんーんあさりふかーんーん
あさりふかーんーんあさりふかーんーん
あさりふかーんーんあさりふかーんーん

ええ ^{▲ふふふや} めいさそでほされいさそくけうてほ
 さんあゝいひつゝいひつゝまをせうおや ^{▲ふふ}
 是しうちやそでいさあゝいりまをうりうて
 ▲ふふふや ^{▲ふふふや} 尸屋指 ^{▲ふふふや} あんぢや ^{▲ふふふや} 是しは富士山ほ
 かほさるまふすう一ひあゝりまをせう ^{▲ふふ} あんぢや
 ろほいのこゝまめ ^{▲ふふふや} そめめさそでほざりまを
 海是とあゝりまふすいふでんぢやうまされうてほ
 るでほざりまふす ^{▲ふふ} そふあゝいひつゝいひ
 おそい ^{▲ふふふや} まい ^{▲ふふふや} 世にたのうごちあの方のほま
 ほまをせほほまいそのうけいひつゝも葉のあまを

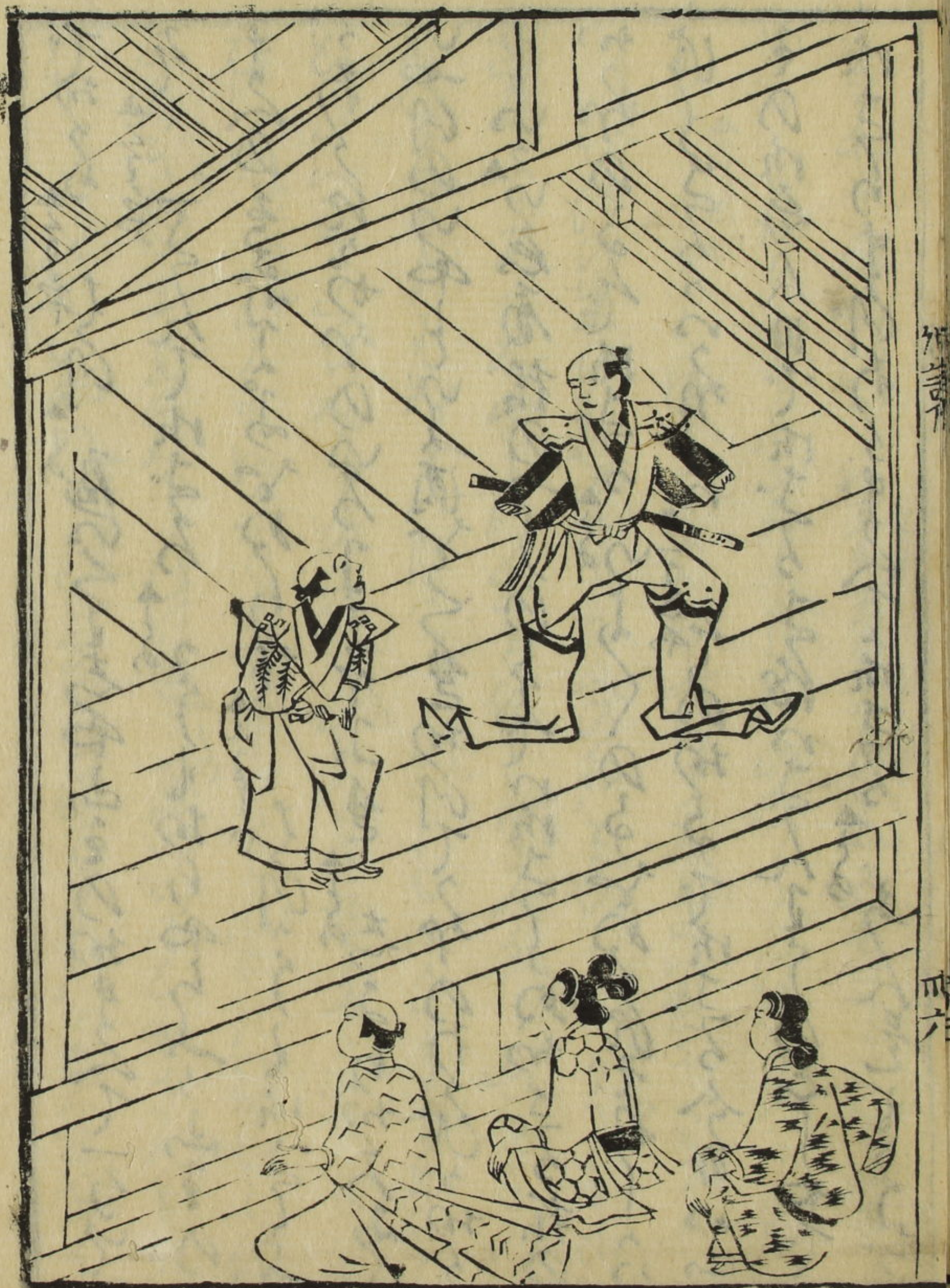
[illegible]

あめふりくさくさうらやういこ[▲]_よちてしまの
つづろ[▲]_こあはにあられてほざろ[▲]_よふしりえ
はろしげろのうあつせ[▲]_こほしにぬうつごめ
ありそらにとろーてほざろ[▲]_よがうてひであざろ
それく今日とまのあ人曰ふまへむけてぞ世さんする
[▲]_こあはれはまのりまつせうろ[▲]_ようんて供とせう
ひいらつろ[▲]_こあつまつろまつろ[▲]_ようちよ
そのうみちようくの白でありあろうはなすろわ
けろねとろろそ[▲]_こ畏てほざろ[▲]_よかうもあ
やうふあところおよちうらうそ[▲]_こおしき

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a form of shorthand. The text is written on a single line across the page. It begins with a small symbol resembling a stylized 'v' or 'w'. The script is fluid and continuous, with many loops and flourishes. There are several small, dark, triangular or diamond-shaped marks interspersed throughout the text, possibly indicating specific notes or punctuation. The text ends with a small, dark, triangular or diamond-shaped mark.

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a form of shorthand. The text is written on a single line across the page. It begins with a small symbol resembling a stylized 'v' or 'w'. The script is fluid and continuous, with many loops and flourishes. There are several small, dark, triangular or diamond-shaped marks interspersed throughout the text, possibly indicating specific notes or punctuation. The text ends with a small, dark, triangular or diamond-shaped mark.



やゝのめし来と千日千転あわひといふことなら
 いわくすひわのむいある一本すしきさすてさひくさう
 ちうとわ白より出てもあり△さる
 はらり△の めいもくぞえはまのあらこれをもい△こたへ 願板は流
 白よつめてせめくやうにさわけるをなされする
 △もの あう白すそでよくしたをいといへん色おん
 ちぢぢちうー△さる けくさくくいひるやほぐそ
 うろちふ△の めんともあるさすさうかれあり△さる

寅文五巳年三月日

板東源起圖

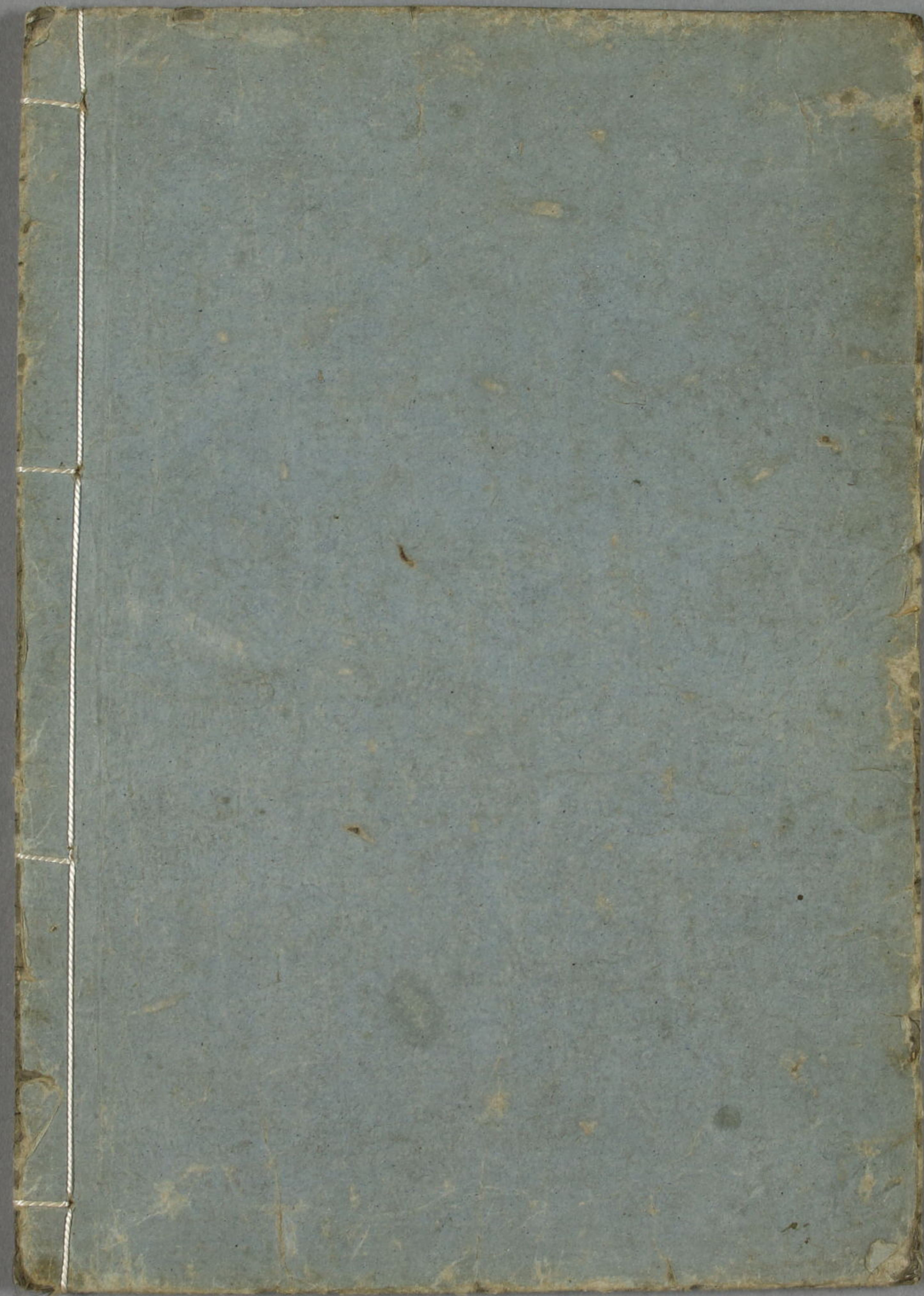
全
龍
三
冊

け書ハ氏家平生つゝものぞく如くは家歌謡れもむだに生るゝを
そぞろをやりつゝ又おそろろりさきすゝもてお今に美儀づ集めて
いと事じ画をまじく文宗ふことぐかる所つけ児女あふもなり
さうあんせろふと人歌著うねおろつゝいりのおろろてまう

消息字人街家流
全一冊

け書、書状文章ふ入る所は文字の紙あるは紙にあらぬの最字なり
かゝるとお感かういじ又是で紙を引く事又自然と出来ていふ今
よむと書面もあつてあつて平岡仙合の事、又紙條字も繁文、後平岡
仙合の事、又いふ、

秋田屋太右衛門



卷之八 莊子記

下